

古代日本の国づくりの舞台

「飛鳥・藤原」とはなんだろう？

「飛鳥・藤原」は、県内で4件目の世界文化遺産の登録を目指している遺跡群です。橿原市、桜井市、明日香村にある、宮殿跡、仏教寺院跡、墳墓など20の遺跡で構成され、平成19年に「飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群」として世界遺産暫定一覧表に記載されました。

古墳時代の終わる6世紀末から平城京へ遷都する約1000年間に、中国・朝鮮半島との交流や、中央集権体制を採用した国づくりが行われたことを示す多くの遺産があります。

世界の多様な文化や自然を、人類共通の貴重な遺産としてリストアップし、保存していくことが世界遺産の考え方です。「飛鳥・藤原」の地に残る遺跡群を、世界に誇る価値のある文



ひんごしつか
牽牛子塚古墳は、令和4年3月に史跡整備が完了して公開されました。築造当時の姿に復元され、内部には墳丘・石槨が保存されています。(明日香村提供)



藤原宮跡では、発掘調査成果をもとに当時の建物の推定位置と規模を復元柱で示しています。(橿原市提供)

化遺産として確実に保存し、後世に伝えていくために、県民の皆さまと「飛鳥・藤原」への理解を深めたいと思います。今回より始まる連載では隔月で「飛鳥・藤原」の価値や魅力、構成する遺跡を紹介します。

奈良の世界遺産を知ることが
できる冊子を発行しています。

世界遺産ジャーナル 検索

飛鳥宮跡 明日香村

飛鳥宮跡は630年、推古天皇の後を継いだ舒明天皇により岡本宮として造られました。それまで、天皇の代替わりごとに場所を変えていた宮殿が一方所に定着し、その後、板蓋宮、後岡本宮、浄御原宮の4時期にわたり、歴代天皇の宮殿が置かれました。

645年の「乙巳の変」で中大兄皇子らが蘇我入鹿を誅殺するなど、日本古代史上の多くの出来事の舞台ともなりました。



飛鳥宮跡復元CG



◀ 飛鳥宮跡のCG解説動画
をご覧ください。

所 明日香村
 奈良交通バス「岡橋本」下車
 北へ約300m